



# 「先生」について

駒澤大学名誉教授

佐々木宏幹

# 仏教企画通信

発行日 | 令和2年3月1日

# 59

発行所 | 有限会社 仏教企画  
〒252-0116  
神奈川県相模原市緑区城山4-2-5  
Tel. 042-703-8641  
Fax. 042-782-5117  
発行人 | 有限会社 仏教企画代表 藤木隆宣  
Email | fujiki@water.ocn.ne.jp

## 「先生」とは？

NHKの金曜日夜の番組に「チコちゃんに叱られる」がある。五歳の女の子が大人を相手につきつぎに問いを発し、大人が答え損なうと、顔を真っ赤にして「ボーっと生きてんじゃねえよ！」と大喝一声するとうるものである。なるほどと頷くことの多い内容である。

ここで取りあげる「先生」もそうで、チコちゃんに「せんせい」って「なあに」？と訊ねられて即座に答えるのは難しいのではなからうか。さて、「先生」の意味は、①先に生れた人。②学徳のすぐれた人。自分が師事する人。またその人に対する敬称。③学校の教師。④医師・弁護士など、指導的立場にある人に対する敬称。⑤他人を、親しみまたはからかって呼ぶ称。」とある(『広辞苑』)。

私が小学生であった頃の「先生」についての歌でまず思い出すのは、「あおげば尊し 我が師の恩 教えの庭にははや幾年 思えばいと疾

し この年月 今こそ別れめいざさらば(「あおげば尊し」明治一七年(一八八四)『小学唱歌集(三)』)である。

この歌は野ばら社刊『愛唱歌(二〇二二)』によれば「作詞・作曲者不詳」とあるが、たしか卒業式のときに「年月めぐりてはや幾年 卒業証書受くる身と なりぬる君等が嬉しさは そもそものなにか 諭うべき」という歌と一緒に歌ったと記憶する。

私が小学校一年生のときの担任は、若くて美しいM先生という色白の女性教師であった。二〇代であったと思うが、接しているうちに母のようにも姉のようにも感じたことを今も心のうちに留めている。

なにしろ二歳で父を三歳で母を亡くし、母方の祖母の手で育てられた私は、ごく幼いときから年上の女性にたいしてある種の「慕情」とでもいうべき心情を抱いていたことは、すでに述べてある(本紙五八号「ふるさと」について)参照。

この心情はかつて森昌子が唱って広く知られるに至った「せんせい」の歌詞に通じているように感じている。

「淡い初恋消えた日は 雨がしとしと降っていた 傘にかくれて棧橋で ひとり見つめて泣いていた おさない私が胸こがし 慕い続けた人の名は せんせい せんせい せんせい せんせい(一九七二年、阿久悠作詞・遠藤実作曲)。

M先生は私が孤児であることをよく知っており、成績もまあよい方だったせいも特別

な目で見てくれていたらいいことは、私にも何となく分かっていたように思う。だからと言って当時七歳の子が「胸こがし、慕い続けた」のかどうかは分からない。多分言葉で表せばそれに近いものであったらと思う。

## 「先生」の諸相

私たちが日常使う「先生」の語は多くの意味を持ち、たとえば英語の teacher とはかなり異なっていることは『広辞苑』の「先生」の項を見れば判然とするだろう。

「先生」という語によってまづ頭に浮かぶのは各種の学校の教師であろう。ふつう、商人や農民を「先生」とは呼ばないだろう。「先生」=学校の教師」とするのが常識だろう。

ところが現実には然らずである。私が幼少の頃の話であるが、近くに「銀杏校長」と渾名されるYという五十代の男性が

いた。この人はいわゆる「物知り」の農民で、どんな疑問にも一応それなりに答えをだせる人であり、周囲の人たちは分からぬことがあるとこの人に訊ねるのが常だった。Yさんが銀杏校長と呼ばれたのは、自家のすぐ横に公孫樹の大木があったからである。

『広辞苑』には⑤「他人を、親しみまたはからかって呼ぶ称」とあるが「銀杏校長」という呼び方は、この意味でも「言い得て妙」である。



私は数多くの「先生」にお世話になったが、記憶に鮮明に残っている先生と、忘却の彼方に去った先生とがある。さきに挙げたM先生は美人であり、とくに目をかけてくれたように感じていたので、記憶に残るのは当然であるとして、ほかに誰がいたのだろうか。

M先生のほかに覚えているのは校長先生と教頭先生である。私が小学校に入学したのは一九三七年(昭和一二)であったが、この年は日中戦争(支那事変)が勃発した年である。この戦争が一九四一年(昭和一六)の太平洋戦争へと続くのであるから、私の小・中学校時代は、まさに戦争時代であった。

さて、私が入学した小学校の校長はD先生、教頭はH先生であった。この両先生がひとときわ立派に見えたのは、当節(明治天皇誕生日)や明治節(明治天皇誕生日)のような特別の日であり、全教師と全生徒が講堂に集合して儀式が行われるときであった。

校長も教頭もモーニングコートを着て、ピカピカの靴をはいていた。歩くときにはキュツ、キュツと音がでるのがとても恰好よかった。

式があるたびに校長先生は必ず「教育勅語」を奉読したが、あの独特の抑揚は日常とは異った雰囲気を感じた。先生は一般の人とは違うなあという感じを与えた。その頃の唱歌に「着物を着替え帯を締め 鞆をもって学

室町時代から続く歴史あるお寺

早坂さんは徳本寺と徳泉寺の両方の住職をされてらっしゃるのですか。

早坂 はい。徳本寺は二十五代目、徳泉寺は二十三代目となります。

徳本寺と徳泉寺はどのようにして生まれたのですか？

早坂 徳本寺は一四四一年(嘉吉元年)に岩代国伊達郡大枝村(福島県伊達市梁川町東大枝)に地頭・大條孫三郎宗行が建立したのが始まりです。

九代伊達政宗の弟、宗行は大枝村に大枝城を築き、大枝氏となります。

徳本寺はその大枝氏の菩提寺です。

一五九三年(文禄二年)に大枝が大條に変わり、一六一六年(元和二年)に大條氏が移封したことで宮城県山元町坂元白小路に移転建立されました。その後、一六八五年(貞享二年)と一七七六年(安永五年)に火災に遭い焼失したことからまた移転し、現在地(宮城県山元郡山元町坂元寺前一三)に辿り着きました。現本堂が建立されたのは一八五一年(嘉永四年)です。五八〇年近い歴史があることとなります。

室町時代から続く歴史あるお寺なのでね。

早坂 徳泉寺(宮城県亶理郡山元町高瀬字笠野一四〇)は、一六五一年(慶安四年)に徳本寺の第五世 青岩存陽大和尚が末寺として開きました。徳泉寺の住職が亡くなり、後継者がな

校へ 先生の言うことよく聞いて 立派な子供になりましたよ」というのがあった。「先生」の言うことに耳を傾けるのは、「立派な子供」になる必須条件であるとされていた。一口に「先生」と言っても、幼稚園から小学校、中学校、高等学校、大学、大学院までいろいろな先生がいる。子供たちは一人前になる過程で、各教育機関でさまざまな「先生」に師事し教育されるのである。「先生」と呼んでいた本人が「先生」と呼ばれることにもなる。

不肖私は小学校の先生を二年間、大学の先生を四〇年間務めた。

小学校と大学の先生を経験して、どちらが大変であったかと言えば、前者であった。その理由は、担任で受け持ったKという女の子の父は他の中学校の校長であり、母は他の小学校の教頭であった。学年は二年生であったから、国語でも算数でも教えることにさして困難はなかった。ただ、年に二度あった「授業参観」の日はずごく緊張した。前日から落ち着かなかつた。その日は子供たちの父兄が授業を観に来校したが、Kの母親は必ず来校して他の父兄と共に子供たちの背



後に立って、私の一挙手一投足を凝視し続けたからである。授業が終り子供たちが教室の外にでると、父兄が挨拶にくる。「有り難うございまして」がほとんどなのだが、Kの母親は「分かりますか、良い授業でした」と言っていて微笑んでくれた。「ホッとするとあのとときの私の気分であつたらう。あの嬉しさは今も忘れない。

小学校では渾名で呼ばれるような先生はいなかったが、中・高校ではかなりいた。生徒に知恵が付き、他人を茶化すことの面白さを知ったからであるうか。先輩が後輩たちに、得意気に先生たちの渾名を教えることもあった。エントツ、ザンバ、アゴ、アオなど。エントツは体育、

ザンバは英語、アゴは化学、アオは数学の先生であったが実際に見ると成る程と感心したものである。

エントツは鼻の穴が大きい、ザンバはザンバラ髪のように前髪が垂れている、アゴは顎がしゃくれている、アオは青白い顔。

「次の時間は何？」と訊かれると「英語」と言わず「ザンバ」と答えるのが常だった。

先生を馬鹿にしているのではなく、一種の敬愛語ではなかったかと思う。校長と教頭にはさすがに渾名はなかった。校長は東京文理科大学(現筑波大学)の出身であった。田舎の中高生でも東京の有名大学は知っており、この先生は何大学、何高等専門学校出身かによって相手を見る目を異にしていた。

教頭のN先生は話上手な人で、国語を教えていた。時事解説が得意であり、「戦争っ子」であった私たちは、マッカーサーがどうの、アイゼンハワーがどうのと話に熱中していた。前者はアメリカ軍の太平洋方面、後者は同じく大西洋地域の最高指揮官であり、当時は新聞・ラジオに名が出ない日はなかった。

ところが一九四五年(昭和二〇)八月十五日、この国が連合軍に降伏すると、とたんに先生たちは民主主義や平和主義の素晴らしさを説きだした。「先生」はこんなに変わるのかと驚いた記憶がある。

しかし省みると、戦争時代を生きた人は「非常時人間」

であり、先のことは見通しが全くつかない時を生きていたのである。あの時代の先生たちの言動を、平和な時代にどっぷり漬かっている私たちが責めるのは酷であろうとも感じる。どんな立派な先生も所詮「人間」である。人間であるからには内に理性を秘めると共に非理性をも具えているはずであり、どちらか一方ではなく両者を具有した存在であるということになる。

ところで人間が進化の過程で「人間らしくなったのは、端的に言えば「宗教」という文化(生活様式)を持つたからではないだろうか。

そして私見によれば、この宗教には大別して二種類あり、一つは修行によって自己自身をよく整え、「煩惱」なる自己中心的な執着・欲望から自己を解放することで「仏」(覚者)の実現を目指す宗教であり、もう一つは、超絶的で絶対的な「神」を仰ぎ、この神が人間を救済するために遣わした神の子としての人物が説いた教えを信奉する宗教との二つである。前者が釈迦の「仏教」、後者がイエスの「キリスト教」とムハンマドの「イスラム教」である。

先に引用した「広辞苑」の「先生」で言えば②学徳のすぐれた人。自分が師事する人に相当しようが、二大宗教の教祖とされる釈迦とイエスとはその影響力からして「超大先生」とも言うべき存在である。

二人の超大先生は尊敬され畏敬されると共に礼拝され祈

願される対象でもある。釈迦は一般に「釈尊」とも呼ばれる。よく知られているように釈尊は「釈迦牟尼世尊(仏)」の略語であり「牟尼(muni)は梵語で「聖者」を意味し、「世尊」(bhagavat)は「福德ある者・聖なる者」を指す。釈尊は先生中の先生。超大先生であり、万人に尊敬・畏敬されるゆえに「導師」「尊敬される先生」とも称された。この国にもかつてみずからを「導師」と呼ばせた新宗教の教祖がいたことは周知のとおりである。

このように私たちが日常生活として使っている「先生」は立場上も役割上も実に多種多様であり、この稿で「諸相」の語を用いたゆえんである。

さて「大学の先生」は、これまで述べてきた先生方とどこが共通し、どこが違うのであろうか。昔前の人たちは「大学の先生」と言えば知識人の典型であり、エリート中のエリートと見ていたのではなからうか。もちろん「駅弁大学の先生」などと皮肉られる以前のことである。

私見では大学の「先生」には大別して二種ある。学生に専門領域の知識を与え、人の道の何たるかを説く人と、これらの役割に加えて、テレビラジオ、新聞、雑誌等に常に登場し、その識見を分かり易くかつ能弁に示す人たちで、かつては「オビニオン・リーダー」(世論形成者・世論先導者)などと呼ばれたこともあった。この種の「マスコミ先生」

は話し上手であるほかに外見もよく、かつ女性に好感を与える人が少なかつた。今でも政治、経済、社会、国際教育、流行など文化の諸領域の専門家とされる先生たちが各種マスメディア、ことにテレビに登場する。

こうした「先生」には、研究者・学者として学界(多くの「学会」より成る)で活躍している人もいるが、多くは外見よし話よしの人が多いようだ。「朝日新聞」土曜版「be」の「生老病死」に長い間執筆されている宗教学者、山折哲雄氏とは同じ東北出身という点も共有し、古くからお付き合いがあるが、その博識と鋭利な表現力には毎度舌を巻いている。

最近ものされた「ころ」と「心」、二つの大河の流れ(二〇一九・一二)はその例で、「ころ」は一般の日本人の日常的な喜怒哀楽のすべての姿を愛綺きわまりなく表しており、『平家物語』や『謡曲』はその線上にあると言う。

これに対して「心」は漢字であり中国文明の風光が匂い立ち、日本と中国を往來した知識人の活動が映しだされており、最澄の「道心」、空海の「十住心」、法然や親鸞の「信心」、道元の「身心(脱落)」、日蓮の「観心」などその例だらうと述べている。

「ころ」と「心」について右のような明快な解釈を示した学人はこれまでいたであろうか。

山折「先生」には脱帽するのみである。

# 大津波から戻って こられた一心本尊と

徳本寺住職  
早坂文明師  
インタビュー



# 「はがき一文字写経」が 叶えた徳泉寺の再建

取材 大橋博之

く本寺である徳本寺の住職が兼務することになりました。私が兼務するようになって二〇年くらいになります。

## 徳本寺と徳泉寺で 二七人が亡くなった

徳本寺と徳泉寺は、二〇一一年三月一日の東日本大震災で被害にあわれましたね。

早坂 徳本寺は海から遠く高台にあったこともあり、それほど被害はありませんでした。しかし、沿岸部から僅か三〇〇メートルのところにあつた徳泉寺は大津波に襲われ、ご本尊、伽藍・仏具等はおろか本堂もすべて流され、墓地も壊滅状態でした。何もかもなくなってしまったのです。海に近い檀家さんはほとんどの家屋が流され、現在も災害危険区域になっていて、居住することができません。そのためさまざまなところに転居を余儀なくされ、今なお不便をされている方も多いためです。当然、犠牲者も多くいます。

地震発生時、早坂さんはどこにいらしたのですか？

早坂 徳泉寺にいました。午後一時三〇分から護持会総会があり、みんなが集まっています。終わったのが二時三〇分頃です。後片付けをしていたところへマグニチュード九・〇の大地震です。みな本堂にいました揺れがものすごく大きかったです。履物ははずす外に飛び出しました。

そのときはまだ津波が来る

とは思っていまませんでした。揺れが凄いので驚いただけです。墓石は倒れていませんでしたが、周りの家の瓦が落ちていたので「これは大変なことではないか」と思い、みんなに「後片付けはいいから」とすぐに帰ってもらいました。その後急いで徳本寺に戻りました。そのとき車内のラジオが「六メートルの津波が来る」と告げていました。でも、六メートルの高さの津波がイメージできませんでした。「お寺が床下浸水になるのかな」くらいにしか思っていなかったのです。

徳泉寺から徳本寺までは車で何分くらいですか？

早坂 一〇分くらいです。二時四六分に地震があつて、徳本寺に着いたのは三時過ぎだったと思います。

徳本寺の近くのJR坂元駅に「海から約一・八キロメートル、海抜五・七メートル」の看板がありました。さらに駅近くの国道六号線で「過去の津波浸水区間(ここまで)」の表示を見ました。海から遠い徳本寺なのに本当に近くまで津波が押し寄せて来ていたのですか？

早坂 まさか津波が国道六号線に迫るとは誰も考えていませんでした。いまは何もありませんが、当時は海の方まで家屋がありました。逃げずにいた人も多く、犠牲になった方は多数います。

そのときの情報源は人の話だけでした。防災無線はありませんが、聞き取りにくく、実際は、聞こえなかつたという地域もあつたようです。地

震が来てすぐに停電になったのでテレビも観られませんし、電話も通じません。車のラジオと人の話だけが頼りでした。結局、徳本寺までは津波は来なかつたのであまり心配せず、その日は地震で倒れたものを片付けたりしていました。次の日に坂元駅のある方面で歩いて行ったら、あたり一面が泥水で瓦礫の山。そのとき、事の大きさを目の当たりにしました。

徳泉寺の方にはいつ、行かれたのですか？

早坂 一週間後の三月一八日です。道路の通行ができませんでした。自衛隊の方が瓦礫を取り除いてくれて、自動車を通れるようになるのに一週間かかりました。歩いて行けば行けたと思いますが、そこまでの力はありませんでした。徳泉寺に着くと、周りは白い砂浜状態でした。すべて流されてしまったのか瓦礫すらありません。来る途中までは瓦礫の片付けをする人がいましたが、徳泉寺のあたりでは瓦礫の片付けをする人すらいませんでした。

徳泉寺があつた場所はわかったのですか？

早坂 土台だけがありません。「ここまであつてしまふのか」と驚きました。お寺が倒壊しているとかではなく、跡形もなくなっているのですから。現状を目の当たりにすると、「これからどうする」といった考えも思い浮かびません。ただ、ここに誰も住んでいなかったことだけが救いだったと思います。

「檀家さんの状況はいかがでしたか？」

**早坂** 電気も水も、食糧品もありませんから、みなさん避難所暮らしでした。自分たちの明日がどうなるのかもわからない不安な毎日です。ご家族が犠牲になられた方もいます。誰もが途方に暮れていて何も考えることができません。それでも私は遺体安置所に行つて、お勤めをして、火葬場に出かけていました。その火葬場も容量オーバーで、四月には震災犠牲者の火葬はできなくなりました。そのため土葬での仮埋葬になりました。山元町だけで犠牲者は六三六六人。町の人口の約四割が亡くなったのです。徳本寺の檀家さんは一四三人、徳泉寺は七四人。二つのお寺で二一七人が亡くなりました。他市町の火葬場に行つたり、仮埋葬から掘り起こして改めて火葬をして落ち着いた頃に葬式を行



「復興支援の思いが込められた一文字が印字されたたくさんの木札」（真ん中の「六」は永六輔さんの写経）

ました。その頃の状況は悲惨だったので「青空があるから大丈夫」なんて励ましては通用しないと思つていたので、誰にも言えませんでした。誰にもそれほどの大勢の方が支援してくださると思つたらうまいか。

**早坂** いいえ、まったく思つていませんでした。なにしろ「はがき一文字写経」は一口五〇〇〇円ですから、まさか四年で建設工事の契約ができるとは夢にも思つていませんでした。なかには「一口五〇〇〇円ではいつまでかあるかわからない」という意見もありました。一口一万円と言いたいところでしたが、それではハードルが高い。普通、写経は一〇〇〇円か二〇〇〇円です。そこは「再建」という趣旨を掲げていますので、五〇〇〇円にさせていただきました。でも、一口ではなく二口、三口といただくことができました。

「はがき一文字写経」を発売されたきっかけをお聞かせください。

**早坂** 私はカンボジアに小学校を建てる運動もしています。そのときに書き損じのはがきを集めて資金集めをしていました。書き損じのはがきを郵便局で手数料を払って新しいはがきと交換してもらい、それを買ってもらうことで差額を資金とします。それで何百万円が集まりました。そこからはがきは手軽なので、はがきを使って何かできないかと考え、一文字なら写経してくれるだろうと考えたのです。

「はがき一文字写経」が「心」が多いです。また「愛」などさまざまにありますが、一文字ではなく「笑顔」など二文字もありますね。みなさん本当に想いを込めた字を書いて下さっています。

**徳泉寺の再建状況をお聞きしてもよろしいでしょうか。**

**早坂** 七回忌までにはと思つていましたが、何らかの工事の遅延を繰り返して、当初の予定より一年以上遅れて、二〇一九年二月二〇日に外観が完成しました。まだ内部の建具設置が遅れていますが、二〇二〇年春には完成の予定です。二〇二〇年三月一日の震災の日に落慶法要を行い、その後一日にかけて「徳泉寺復興感謝祭5 DAYS」を行う予定です。コンサート・写経会・坐禅会やテレホン法話ライブなどを連日催して、みなさまにお参りいただくことを



「徳泉寺のご本尊も本堂と共に流されたのですか？」

**早坂** はい。そのときはすべて流されました。ところが四月三日にある檀家さんが「これは徳泉寺の仏様でしょ」と新聞紙にくるんだものを持ってきてくれました。それがご本尊のお釈迦様でした。お寺から約二キロ先の屋敷の片隅に置かれていたそうなんです。その頃、ボランティアの方が瓦礫の片付けをしてくれていて、どなたかが流れてきたものを「見つける人もいないだろう」とそこに置いてくれたみたいです。それをたまたま檀家さんが目にして「これだけ立派なものには徳泉寺のご本尊に違いない」と考え、

運んでくれたのです。それを見たときは大変驚きました。傷はあるものの大きな損傷はありません。「こんなこともあるのか」と思ったのと、「これはなんとかしなければいけない」と考え、どんな災難に遭つても、人々の支えになろうとする一心で踏み止まったご本尊と信じて「二心本尊」と名付けました。徳本寺に仮安置して今も毎日無難無災のために手を合わせています。

「はがき一文字写経」が「再建」を導いた

「再建のためとはいえ資金に問題はない」と思つていました。ご本尊が無事に帰ってきたことから、ある方の「絶対に再建できる」という言葉も心に響いていました。

しかし徳泉寺のあった地域は現在でも災害危険区域になって

に付いているはがきに、お好きな一文字を、心をこめて写経していただき、それを徳泉寺に送つていただくと、奇跡的に見つかった「二心本尊」を刻印した金属製のお守りカードをお送りするとともに、一口五〇〇〇円の納経料を納めていただくというものです。それを再建のための資金にすることにしました。

また、「はがき一文字写経」は「二心本尊」の下に納経し、永代供養することにしました。そのことと意義あることと思つていただくようにしました。

四十七都道府県から届いてきます。永六輔さんがラジオでお話して下さったので、新聞やテレビなどが取り上げられたことで広まりました。また、シンガーソングライターで歌う尼さんと呼ばれるやなせなさんと一緒に歌を作ったことも要因です。私が作詞をしてやなせさんが作曲をした「はがき一文字写経」イ

「徳泉寺のご本尊も本堂と共に流されたのですか？」

**早坂** はい。そのときはすべて流されました。ところが四月三日にある檀家さんが「これは徳泉寺の仏様でしょ」と新聞紙にくるんだものを持ってきてくれました。それがご本尊のお釈迦様でした。お寺から約二キロ先の屋敷の片隅に置かれていたそうなんです。その頃、ボランティアの方が瓦礫の片付けをしてくれていて、どなたかが流れてきたものを「見つける人もいないだろう」とそこに置いてくれたみたいです。それをたまたま檀家さんが目にして「これだけ立派なものには徳泉寺のご本尊に違いない」と考え、

「はがき一文字写経」を発売されたきっかけをお聞かせください。

**早坂** 私はカンボジアに小学校を建てる運動もしています。そのときに書き損じのはがきを集めて資金集めをしていました。書き損じのはがきを郵便局で手数料を払って新しいはがきと交換してもらい、それを買ってもらうことで差額を資金とします。それで何百万円が集まりました。そこからはがきは手軽なので、はがきを使って何かできないかと考え、一文字なら写経してくれるだろうと考えたのです。

「はがき一文字写経」が「再建」を導いた

「再建のためとはいえ資金に問題はない」と思つていました。ご本尊が無事に帰ってきたことから、ある方の「絶対に再建できる」という言葉も心に響いていました。

しかし徳泉寺のあった地域は現在でも災害危険区域になって

に付いているはがきに、お好きな一文字を、心をこめて写経していただき、それを徳泉寺に送つていただくと、奇跡的に見つかった「二心本尊」を刻印した金属製のお守りカードをお送りするとともに、一口五〇〇〇円の納経料を納めていただくというものです。それを再建のための資金にすることにしました。

また、「はがき一文字写経」は「二心本尊」の下に納経し、永代供養することにしました。そのことと意義あることと思つていただくようにしました。

四十七都道府県から届いてきます。永六輔さんがラジオでお話して下さったので、新聞やテレビなどが取り上げられたことで広まりました。また、シンガーソングライターで歌う尼さんと呼ばれるやなせなさんと一緒に歌を作ったことも要因です。私が作詞をしてやなせさんが作曲をした「はがき一文字写経」イ



「人々の支えになろうとする一心で踏み止まったご本尊と信じて『二心本尊』と名付けました」（早坂ご住職）



入仏落慶法要記念写真



日庭寺落慶法要・落慶ウィーク

# 相模原市緑区域城山に完成した日庭寺で 落慶イベントを開催しました



散華写経



落語会



内山節先生講演



正木見先生講演



石澤良昭先生講演



朗読会



増山均先生講演



俳句を唄う

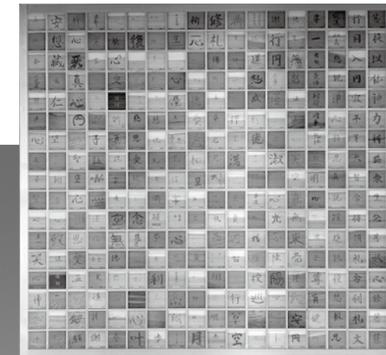


俳句シンポジウム

# 徳泉寺復興感謝祭5DAYS

期間 | 令和2年3月11日(水)～15日(日) 5日間毎日 午前10時より午後4時  
一般公開 【各催し共 入場無料】

場所 | 徳泉寺(宮城県亶理郡山元町高瀬字笠野140)



東日本大震災で本堂等すべてが流出した徳泉寺は、  
全国より寄せられた  
「はがき一文字写経」によって再建できました。

おかげさまと感謝の想いを込めて、  
5日間の特別公開・感謝祭を行います。  
流されても奇跡的に発見された  
「二心本尊」さまが安置されています。

全国47すべての都道府県の人から寄せられた  
約2000枚の「はがき一文字写経」が、  
大本山永平寺の五代杉(部)一般杉に印字され  
本堂内に奉納掲示されています。

- 3月11日(水)**  
午前10時 ・落慶法要  
導師: 正法寺住職 盛田正孝老師  
・大震災犠牲者慰霊法要  
導師: 徳泉寺住職 早坂文明  
午後2時 ・やなせな「ひとつの心」コンサート
- 3月12日(木)**  
午後1時 ・写経会(先着順)  
大震災犠牲者慰霊のための写経  
午後2時30分 ・古謝美佐子のちのコンサート
- 3月13日(金)**  
午後2時 ・坐禅会—坐禅とクリスタルボウル—(先着順)  
クリスタルボウル奏者: 安達季久子
- 3月14日(土)**  
午後2時 ・ボランティアの日  
(協力: シャンティ国際ボランティア会SVA)  
・絵本訳文シール貼り(先着順)  
・「アジアの子ども絵本事情について」  
講師: 山室仁子(SVA)
- 3月15日(日)**  
午後2時 ・テレホン法話ライブ「青空があるじゃないか」  
法話: 早坂文明  
ピアノ: 伊藤智哉 御詠歌: 岡崎るみ子

編集後記

二〇一一年三月一日の東日本大震災で被災された宮城県...

九年間被災された方々に寄り添い、流されたご本堂を再建された師に宗教者としての...

次第に風化していく駒大苦小牧の京都育英館への無償譲渡問題...

二月二日(日)午後二時から認定NPO法人グリーンフケア・サポートプラザ主催の二〇一九年度定期講演会に参加...



藤木隆宣

男魂のゆくえ』が紹介されていた。『...底知れぬ喪失感の中で、息子の行方を追うような気持ちで、そして自分もいざれ行くであろう旅先の情景を求め...

：私の胸の中に満ちてきたのは、空とは絶対的な虚無ではなく、現世に生きる者の目には見えない純化された精神...

講師は柳田邦男のほかに河合隼夫、中原中也、西田幾多郎、世阿弥、三木清、古今和歌集、小川未明、宮沢賢治、金子大栄、綱島梁川らの言葉を紹介しながらグリーンフケアの大事さを話された。

やっていた。この方に寄り添えるようにならなければいけないと思いました。

中村哲医師と親交が深かった本田徹医師も『修証義』の愛読者だ。私が導師を勤めたある葬儀の御家の施主の実のお兄さんにあたることから知り合いになりその後長くお付き合いが続いている。

曹洞宗では『修証義』がわかりやすい經典として一番多く使われていると思う。もつと曹洞宗のお寺で檀信徒と共に読経してほしい。また、使いやすい經典としての展開ができないものか考えてもいい時代になっている。もしそのようなものができれば、私も進んでご法事などで活用したい。修証義の一節を法話として紹介したいものだ。若い方々には相当わかりやすくお話ししないと理解できない時代です。

最後に日庭寺分院はお蔭様で建ちましたが、中の整備がまだまだです。振替用紙を同封させていただきました。ご寄付を何卒よろしくお願い申し上げます。 藤木隆宣九拝

手まり学園

寄附者御芳名 R1.10.22~R2.1.20

Table with 3 columns: 所在地, 寺院名(個人名), 金額. Total amount: 135,000.

てまり学園にご支援をいただき誠にありがとうございます。



みなさまのご寄付のおかげでテニス、バスケットボール、サッカーができる新しい運動施設ができました

仏教企画発行の刊行物 (\*部数により割引があります) すべて税別価格です

- 『修証義』解説 丸山劫外著 1,400円\*
『うたい継ごうよ、子守唄』 長田暁二・西館好子共著 1,200円\*
『まんが問答一期一話』 文平和宏昭 まんが垣内敬遠 1,200円\*
『葬送のしおり』 長井龍道著 30円
修証義読本『生老病死』 須田道輝著 500円\*
『曹洞宗檀信徒經典』 須田道輝解説 300円\*
曹洞宗檀信徒必読『供養のすべて』 靈元丈法著 140円\*
曹洞宗檀信徒必読『葬儀のすべて』 靈元丈法著 150円\*

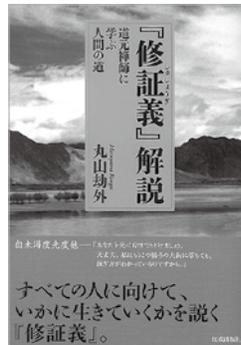
\*『仏教企画通信』を10部以上購読希望の方は一部100円で頒布致します。同封はがきの空欄にその旨をお書きください。(消費税、送料別)

Table for 曹洞禅グラフ with columns: 発行日, 春 彼岸号, 夏 お盆号, 秋 彼岸号, 冬 正月号, 1部 200円, 9部以下 200円, 10部以上 150円に割引, 20部以上 135円に割引, 50部以上 130円に割引, 100部以上 120円に割引, 200部以上 110円に割引, 300部以上 100円に割引, 500部以上 90円に割引

『修証義』解説 道元禅師に学ぶ人間の道

丸山劫外 著

発行所: 仏教企画 発売元: 佼成出版社 定価: 本体1400円+税



- 総序—仏法に出会えた幸せ
懺悔滅罪—広々とした仏の御前に
受戒入位—仏の灯りに照らされて
発願利生—ともに手をたずさえて
行持報恩—あなたもやがて仏に

おもとめは下記お申込先までご連絡ください

お申込み 〒252-0116 神奈川県相模原市緑区城山4-2-5 ※住所・FAX番号がわかりました TEL: 042-703-8641 FAX: 042-782-5117 Email: fujiki@water.ocn.ne.jp

仏教企画

※ご寺院名後の番号(3桁もしくは4桁)がお客番号(コード)になります。お申込みは ①ご寺院名 ②お客番号 ③電話番号でも可能です。